

# 西光

第173号  
お正月号

平成30年  
1月3日発行

浄土宗西山禅林寺派

雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351

Fax 079-254-4142

## 平成三十年

### 年頭の言葉

煩惱は百八減つてけさの春



この句の如く、希望に輝く平成の三十年となりました。慈光の内に生かされている身である私たちは、過ぎしことに執着せず、まだ来ぬことに取り越し苦労をせず、ただ日々報恩感謝の気持ちを持って、己が与えられた業にはげみましょう。

戌(犬)歳の年頭にあたって思い出すのは、子供の頃の正月に必ず遊んだ「いろはカルタ」の最初の「犬も歩けば棒にあたる」の一句です。この言葉の解釈は二つに分かれています。一つは「やってみると思わぬ幸運に出会う」という意味であり、もう一つは反対に「何かやると災難に会う」という意味です。今は先の方で使われることが多いので、やはり幸運説を取り、なにことも積極的に行なう年にしたいものです。

その為に今年の生き方の目標として、二つの徳目をお勧めします。

その一 三宝を敬つて心を習慣にする。

聖徳太子が十七条憲法の第二章で「篤く三宝を敬え。三宝とは仏法僧これなり」と示され、この思想が以後の日本仏教の基礎となっているのです。

その二 三感王を目指す

三感王とは「恩を感じる」「感恩」。そして感謝・感動をいいます。私たちは、さまざまなか縁と御恩をいただいて、今この世に生かされています。その御恩に対して「ありがとう」と感謝する。そして、生かされている命の不思議に感動する。「これを「三感王」と言うのです。「恩を感じ、恩に報いる」という心呼びさまし、生活のなかに「おかげさま」の心を育てたいものです。恩を忘れた日々は、とげとげしく陰鬱であり、恩に目覚めた生活は、明るく朗らかです。

三感王を目指して「生きて身を蓮の上に宿さずば、念仏申す甲斐やなからん」と西山上人が勧められた、喜びの念仏の生活を送らせていただきましょう。

平成三十年 元旦

合掌十念

総本山永観堂禅林寺第九十世法主 義空玄禮



晋山式(4/21)のお稚児さんの募集をはじめます。

詳しくは別紙をご覧ください。



# 独生独死独去独来

皆様におかれましては、新春を迎え健やかに過ごしてのこととご拝察いたします。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

さて、新年早々不穏な空気が漂うタイトルから始まり失礼いたします。独が四つも続き文字通り毒々しい言葉なんじゃないかと思われるかもしれませんが、実はこれはお釈迦さまのことばで『無量寿経』というお経の中に出てきます。「独り生まれ独り死し独り去り独り来る」ちなみにこの後には「身みずからこれを当<sup>つ</sup>け、代わる者あることなし」(私自身がこの独りの人生を生きていかなばならず、誰一人代わってくれる者はいない)と続いています。どんなに愛おしい人であろうと、その人の悩み、病氣、死を代わってやることはできない。「なんと人を斬り捨てるようなことを…お釈迦さまも結構厳しいこと言うな」とお思いかもしれませんが、確かにこれは真実であります。

しかし「こ」からがスタートです。そう自分分は結局独りなのだ、でも自分が独りならばこの人もあの人も皆独りなのだと気づきます。「こ」気づき自覚した時、人は他人に優しくなれるのかもしれない。

こんな話を聞いたことがあります。「優」という字は「人」と「憂」という字から成っています。つまり人の憂いが分かるということが優しさということなのだ。仏さまの性質の一つに「同悲」というものがあります。これは相手と同じ立場になって一緒に悲しんであげるといことばです。仏教ではこの「悲」という漢字は相手に寄り添い気持ちを分かち合うという大変良い意味で使います。相手がうれしい話をしていれば、一緒に喜んであげるといことばです。相手が悩み事を話しているときは一緒に悩んであげる。泣いているときは一緒に泣いてあげる。

私には今三歳(男)と一歳(女)の子供がおりますが、上の子はお兄ちゃんという自覚もだいがついてきたようです。下の子がずっと泣いていると、お母さんに「泣いてるよ」と言いきてくれ、分かっているよ

手が離せないで放っていると、なんだか自分分まで悲しくなってしまう、しまいには二人とも泣いてしまつて收拾がつかなくなることもあります。反対に下の子が悪だくみをして遊んでいると、上の子も同じことを始め一緒に笑つて楽しんでいきます。子供はこういうことが無意識のうちに行えるのかもしれませんが。逆に大人は頭ではわかっているのになかなかできません。

天皇陛下が東日本大震災の際、避難所を訪問し、一人一人に対して床に膝をついてお見舞いされた様子が被災者のみならず国民の感動をよんだのも、その行動が「同悲」そのものだったからです。

よく仏さまみたいな人やなくといいますが、このように相手のおかれた立場になつて、一緒に喜び、怒り、哀しみ、楽しむことができる人がまさに仏さまみたいな人なのかもしれません。特に自分が悲しみの中にある時、いつまでも傍にいてくれる友達はきつとあなたにとつての「同悲」の心をもつた仏さまに違いないはず



気になる・・・



## 不幸があると仏壇は閉めておく？

はじめに断っておかないといけません。お祀りには今まで受け継がれてきたその家、地域毎のやり方があり、それは一番に尊重されるものです。ここで書いたようにしないとダメだと強要はしませんので、「ふん」というくらい思いで肩の力を抜いてお読みください。

さて、家の者が亡くなった時は、仏壇は閉めておいた方が良いのか？それとも開けておいても構わないのか？という質問をよく受けます。  
これは実は難しい問題です。というのも両方とも正解だからです。

かつて家でお葬式をしていた頃の葬儀式の流れは自宅(仏前式)←野辺送り←斎場(龕前式)の流れでした。つまり家の仏壇、つまりその家の「本尊」とご先祖に長らくお世

話になってきたことの御礼と今からお浄土に参りますというご報告をして、火葬場に行く。自宅での仏前式が終われば、仏壇を閉めて野辺送りに向かい、それから中陰の四十九日間は閉めておいて、満中陰を迎えた時にお浄土の仲間入りをされたということ。で仏壇を開けるということもされてきた方が多いのではないかと思います。これは昔からされてきた風習で決して間違っていないと否定されるものではありません。ちなみに、お盆の時、八月十五日にご先祖を送った後、仏壇を閉めるという風習も一部にあります。これも葬儀と同じく、霊を迎える・送るというストーリーに則ったものだと思います。

しかし一方で仏壇は年中無休で開けておくというのも正解だと思つたのです。  
人が亡くなった時に閉めたり、白い紙や布で覆ったりするのは神棚であつて、仏壇はその必要はありません。忌が明けない内は鳥居をくぐってはいけなやか、お葬式に関わった人は祭り(神事)の前にはお祓いをしてもらうというのはよく聞きます。これは穢れ、不浄なるものを嫌う神聖な神様側の考えです。

仏壇は亡くなられた方が今から往こうとしている極楽のお浄土を表しています。真ん中にいらっしゃるの、そのお浄土の主である阿弥陀さんです。そして位牌という形で一足先に往かれています。その家のご先祖がいらつしやいます。このような今から故人がお世話になる世界を閉じてしまふというのは気になります。お寺の本堂でお葬式をする際にご本尊を隠すでしょうか。もちろんそんなことはしません。お寺の本堂と皆様の家の仏間は全く同じ空間です。四十九日の期間も仏壇はいつも同じようにお祀りして何の問題もありません。

中陰壇といつて中陰の間だけ使う白木の仏壇を別に設けることが多いので、それがある分、家の仏壇はお休みした方がよいのではとなんとなく思いがちです。四十九日の間は新仏さんに専念したいという気持ちも十分に分かります。しかし個人的にはその家のご本尊を閉めてしまふよりは開けておいてもよいのかと思います。仏さま、ご先祖の思いは常に私たちに降り注がれています。



## 寺務日誌より

11月17日 禅林学会役員会 於本山  
11月21日 寺宝展法話会に出仕 於本山



本山永観堂の秋は連日大盛況ですが、この時期に青年僧がリレー形式で次々と十分ほどの法話を行って

いく法話会をここ数年実施しています。今年も出仕して参りました。もみじを見に来て、たまたま私の話を聞いて下さるといのは本当に不思議な縁です。果たして心に残るお土産をお持ち帰り頂けたでしょうか。

11月25日 当山十夜会  
11月28日 寺子屋

葬儀の意味や構造について学びました。

12月9日 兵庫青年会法式研究会

今回は住職の葬儀についての勉強会でした。

12月21日 寺子屋

法然上人の『百四十五箇条問答』を読み始めました。

12月31日 除夜の鐘

1月1日 修正会

【予告】春のお彼岸法要は3月18日(日)午後1時～です。

## ご逝去の報

慎んでお悔み申し上げます。生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

大鳥 鷲尾恵美子さん(66歳)11月9日没  
中ノ丁 梶原淳雄さん(88歳)11月18日没  
西浜 赤尾千百子さん(89歳)11月19日没  
飾磨 須多久勝さん(89歳)11月22日没  
大鳥 鷲尾彩子さん(80歳)11月27日没  
西浜 生嶋正克さん(73歳)12月1日没  
西夢前台 北野武志さん(73歳)12月22日没  
中ノ丁 大谷浩基さん(52歳)12月22日没

## 寺子屋



1月25日(木) 3月1日(木)

いずれも午後1時半～午後3時

今は法然上人の『百四十五箇条問答』について、仏事やお祀りに関する質問に対し法然上人が答えているという問答集を読んでいます。時代は違えど皆気になることは同じなんですね。勉強になりますよ(^^)毎回赤いお経の本(浄土宗西山勤行式)の練習や解説もしています。

## 門前掲示板

十二月のごとば

振り向けば

お世話になりし

人ばかり

私一人を生かすために多くのいのち(人)が私を支えている。

見えぬけれどもあるんだよ  
見えぬものでもあるんだよ

(金子みずぶ)

こう思える人はきつと幸せな人生を送っておいでになるはずですよ。

一月のごとば

過去無量の

いのちのバトンを受けついで

いまここに

自分の番を生きている

(相田みつを)

そのバトンにはたくさんさんの願いや思いが詰まっています。それを受け取り、次の世代へ。